

2.6 全国レベルのエコロジカル・ネットワークの現況図

①指標種の観点、②希少な種の観点及び③生態系の多様性の観点から抽出した重要地域等を、表1のとおりエコロジカル・ネットワークにおけるコアエリア、バッファージーン、コリドー等に分類し、重ね合わせ、全国エコ・ネットの現況図とした。なお、それぞれの定義や役割等は以下のとおりである。

(1) コアエリア

人の手があまり加わっていない原生的な自然環境をはじめとして、まとまった生物の生息・生育空間が残存しており、エコロジカル・ネットワーク形成にあたり核（コア）となる地域を全国レベルの構想におけるコアエリアとした。また、里地里山は農林業活動などにより適度に人の手が加わる中で特有の動物相が形成されてきた地域であり、オオタカ、サシバの生息情報のある里地里山もコアエリアとした。これらの地域は、わが国の生物多様性の保全の屋台骨としての役割を担っている地域であり、各地域の特性に応じ適切に保全・管理されることが望まれる。

(2) バッファージーン

コアエリアの外側に位置し、地域ごとに異なる農林水産業等の伝統的な生態系サービスの利用に適応して、多様な生物相とそれに基づく豊かな文化が形成されているエリアを全国レベルの構想におけるバッファージーンとした。生物多様性の保全の優先度はコアエリアより緩やかであるが、わが国の多様な生物相を支える重要な役割を果たしてきた地域であり、適切な農林水産業の推進等により生物多様性の持続可能な利用が求められる。また、多くの生物がエサ場やねぐらなどとして農地等を利用しているため、バッファージーンの適切な管理がコアエリアに生息・生育する生物の保全にもつながる。さらに、緩衝地帯として都市の人間活動がコアエリアに与える影響を緩和するとともに、野生鳥獣と人間の居住地域との間の適度な間合いとして鳥獣被害を防止するなどの機能も期待される。

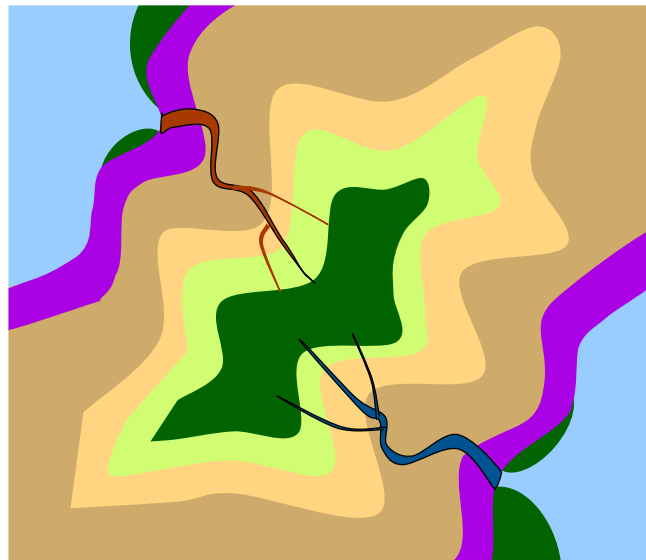
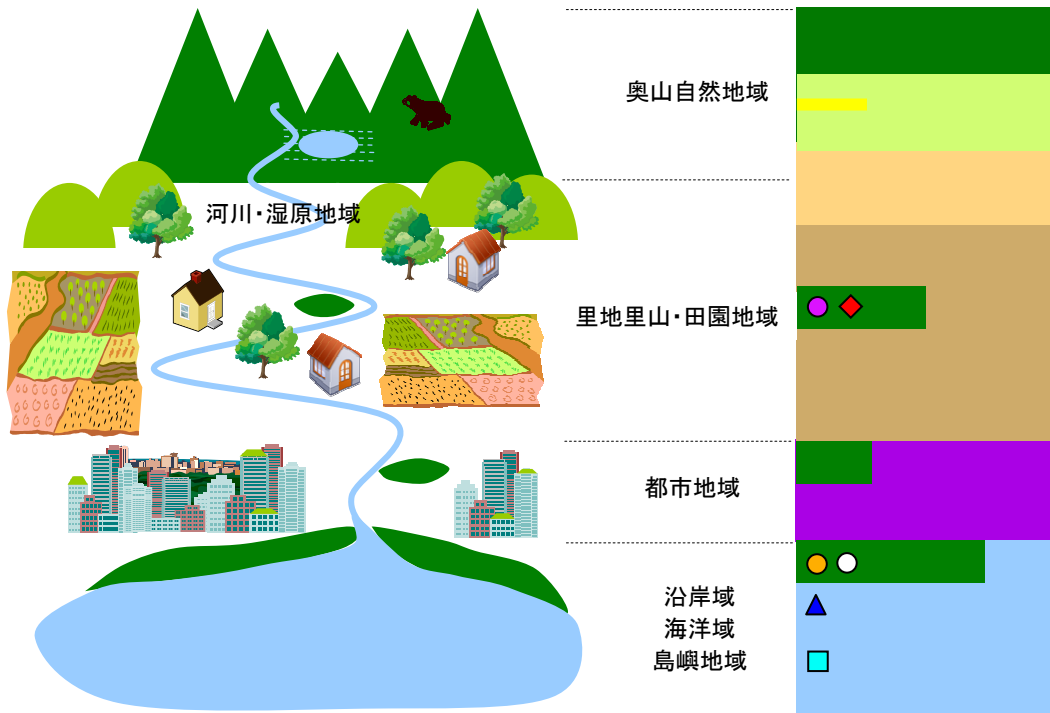
(3) コリドー

森林のつらなり等の連続性が確保された陸域の生態系、魚類等が移動経路として利用する河川等の一連の水域の生息地群、海洋生物の回遊ルート、渡り鳥の渡りルート等を全国レベルの構想におけるコリドーとした。野生生物の個体群間の交流や季節移動、過去の分布地域等への分散を可能とする生息空間であり、地球温暖化による生物多様性への影響の適応策としても重要な役割が期待される。

表 2-5 3つの観点から抽出した重要地域等の全国エコ・ネットにおける位置づけ

	コアエリア	バッファージーン	コリドー (移動経路)
指標種			
クマ類、イヌワシ、クマタカ	クマ類、イヌワシ、クマタカを指標種として抽出した各重要地域をコアエリアとした。	クマ類、イヌワシ、クマタカそれぞれにおける検討で抽出した各準重要地域をバッファージーンとした。	生息地が分断・孤立化し、多くの地域個体群に分かれて生息するツキノワグマ等に関する検討から、同一地域個体群の分布域の中で人の手があまり加わっておらず、良好な森林が数十kmにわたり連続している奥羽山脈等の脊梁部分をコリドーとし、現況図にそのおおよそのルートを図示した。
ガン類	ガン類、ツル類、シギ・チドリ類、ウミガメ類、海鳥、海棲哺乳類を指標種として抽出した各重要地域（ガン類、ツル類の主な越冬地・中継地、シギ・チドリ類の主な中継地、ウミガメ類の主な上陸・産卵地、海鳥の主な繁殖地、海棲哺乳類（トド及びゼニガタアザラシ）の主な上陸場）をコアエリアとした。これらの多くはアジア・太平洋レベルのエコ・ネットの観点からも重要な地域といえる。*	※	ガン類、ツル類、シギ・チドリ類の渡りルート、ウミガメ類（アカウミガメ）、海棲哺乳類（トド）の回遊経路、伊豆諸島御蔵島オオミズナギドリ繁殖集団の採食回遊ルートをコリドーとし、現況図にそのおおよそのルートを図示した。
ツル類		※	
シギ・チドリ類		※	
ウミガメ類		※	
海棲哺乳類		海棲哺乳類（ジュゴン、スナメリ、ザトウクジラ）の分布海域等を、生物多様性保全により配慮した漁業や観光が特に求められる海域としてバッファージーンとした。	
海鳥		※	
アユ等			全国レベルのエコ・ネットということから、本構想で取りあげた一級水系の本川をコリドーとした。
希少な種	希少な種が10種以上の確認されている地域（2次メッシュ）をコアエリアとした。		
希少な生態系	自然林、自然草原、藻場、干潟、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸をコアエリアとした。自然林等はわが国に残された希少な生態系であり、その保存はわが国の生物多様性確保に当たっての基本と考えられる。 また、生態系の上位に位置し、里地里山を特徴づける猛禽類のオオタカ、サンバが生息する地域（2次メッシュ）を、本構想では、生物多様性が豊かな里地里山とし、コアエリアとした。		
※土地利用状況 農耕地、二次林、人工林等		奥山自然地域と都市地域との間に位置する里地里山・田園地域は、都市の人間活動が原生的な自然の核心部（コアエリア）に与える影響を緩和するとともに、よく手入れされた里地里山・田園地域は、野生鳥獣の生息地と人間の居住地域との間の適度な間合いとして鳥獣被害を防止するなど、バッファージーンと考えることができる。このことから、本構想では、クマ類、イヌワシ、クマタカの検討から位置づけられたコアエリア・バッファージーンと市街地等（植生自然度1）の中間に位置する農耕地、二次林、人工林等（植生自然度2～8）をバッファージーンとした。	

※本構想は、全国レベルでの検討であり、現況図の作成に当たっては、全国が一望できるよう、縮尺 1,000 万分の 1 程度を基本としている。このため、例えば、ガン類、ツル類、シギ・チドリ類、ウミガメ類、海棲哺乳類のトド及びゼニガタアザラシ、海鳥の各重要地域については、ポイントで示すにとどまっている。これらについて、広域圏、都道府県、市町村レベルのスケールで掘り下げて検討する場合、面データとしたり、また、さらに人間活動と個々の指標種の生態に関する知見を踏まえ、バッファゾーンについても設定していくことが望まれる。例えば、ガン類はねぐら（湖沼等）から半径約 15km 以内の農業湿地を採食場として利用することが明らかにされており、その範囲をバッファゾーンとして設定することが考えられる。他の観点からの重要地域についても同様のことがいえる。このように、コアエリア、バッファゾーン等は、エコ・ネットの空間レベルに応じて、その内容や図化の可能性が異なる。



	コアエリア	バッファゾーン	コリドー (移動経路)
指標種 クマ類、イヌワシ、クマタカ アユ等	■	■	
上流まで魚類の遡上が可能			—
中流まで魚類の遡上が可能			—
中流まで魚類の遡上ができない			—
希少な生態系 自然林、自然草原、干潟、藻場、 造礁サンゴ生息域、マングローブ林、 自然海岸	■		
土地利用状況 農耕地、二次林、人工林等 市街地等		■	■

図 2-10 生きものの視点からの全国エコ・ネット現況図の模式図

「生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図」を図 2-11 及び図 2-12 に示す。図 2-11 及び図 2-12 は、縮尺が異なるだけで、内容は同じである。

	コアエリア	バッファゾーン	コリドー (移動経路)
指標種 クマ類、イヌワシ、クマタカ ガン類 ツル類 シギ・チドリ類 ウミガメ類 海棲哺乳類 海鳥 アユ等 上流まで魚類の遡上が可能 中流まで魚類の遡上が可能 中流まで魚類の遡上ができない	※ ● ◆ ● ○ ▲ ■	■ ○ ○	→ → → → → → → → → → →
希少な種 (絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類の種) 希少な種が10種以上確認 されているメッシュ	□		
希少な生態系 自然林、自然草原、干潟、藻場、 造礁サンゴ生息域、マングローブ林、 自然海岸 オオタカやサシバのいる里地里山	■ ▨		
土地利用状況※※ 農耕地、二次林、人工林等 市街地等		■ ■	
暖流系の海流 (黒潮など) 寒流系の海流 (親潮など)			→ →

※図化にあたっては、希少な生態系を優先して図化した。
 ※※農耕地、二次林、人工林等：植生自然度2~8 (クマ類、イヌワシ、クマタカのコアエリア、バッファゾーン以外)
 市街地等：植生自然度1

海底地形 (水深)

0 - 200 m
2,000 - 1,000 m
1,000 - 2,000 m
2,000 - 3,000 m
3,000 - 4,000 m
4,000 - 5,000 m
5,000 - 6,000 m
6,000 - 7,000 m
7,000 - 8,000 m
8,000 - 9,000 m
9,000 - 10,000 m
10,000 m以深

— 排他的経済水域の境界線

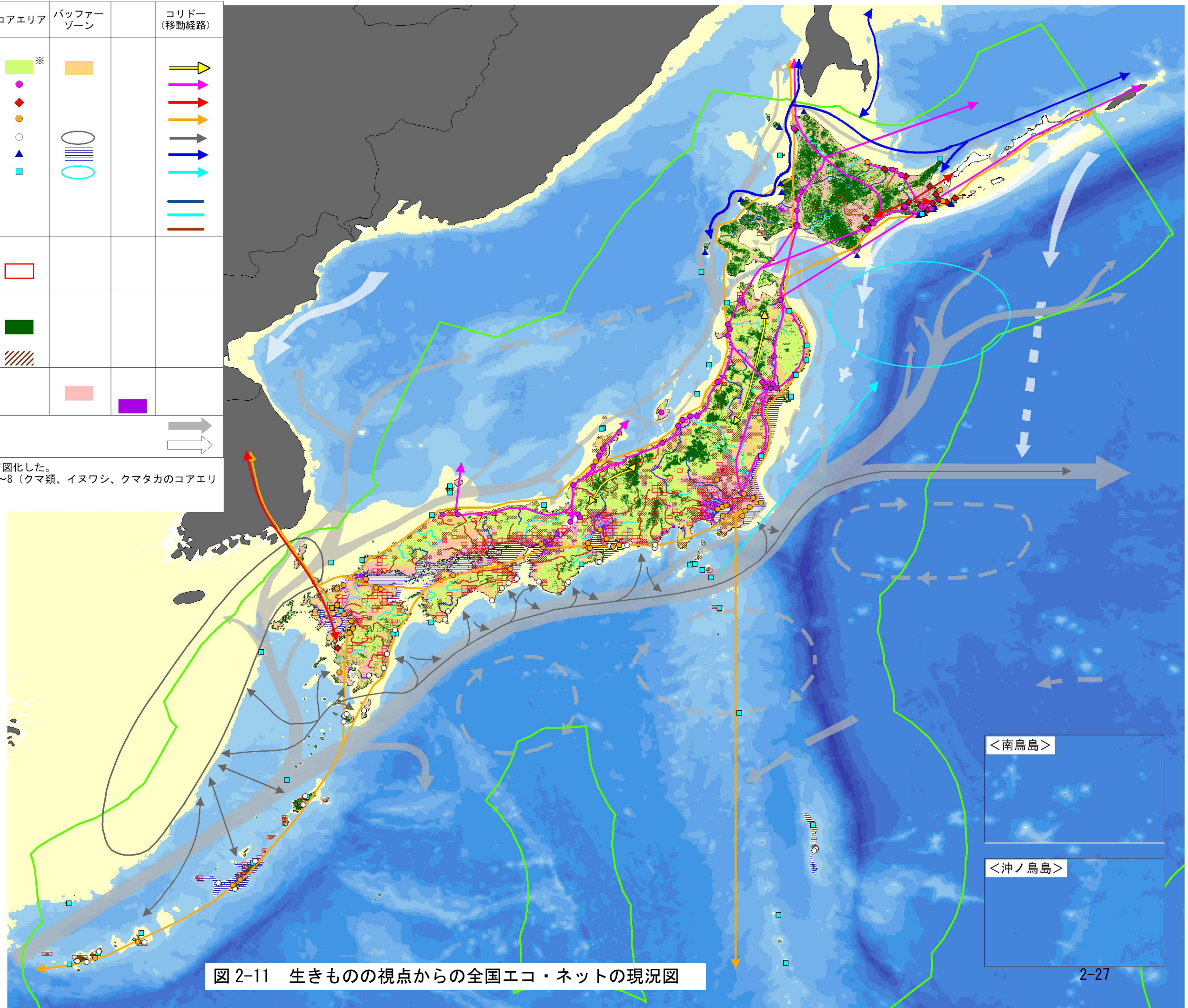
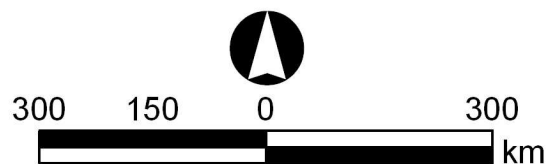


図 2-11 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図

	コアエリア	バッファゾーン	コリドー (移動経路)
指標種 クマ類、イヌワシ、クマタカ ガン類 ツル類 シギ・チドリ類 ウミガメ類 海棲哺乳類 海鳥 アユ等 上流まで魚類の遡上が可能 中流まで魚類の遡上が可能 中流まで魚類の遡上ができない	※ ● ◆ ○ ▲ ■	■ ○ ○	→ → → → → → → → → →
希少な種 (絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類の種) 希少な種が10種以上確認されているメッシュ	□		
希少な生態系 自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸 オオタカやサシバのいる里地里山	■ ▨		
土地利用状況 ※※ 農耕地、二次林、人工林等 市街地等		■	■
暖流系の海流 (黒潮など) 寒流系の海流 (親潮など)			→ →

※図化にあたっては、希少な生態系を優先して図化した。
 ※※農耕地、二次林、人工林等：植生自然度2~8 (クマ類、イヌワシ、クマタカのコアエリア、バッファゾーン以外)
 市街地等：植生自然度1

海底地形 (水深)

0 - 200 m
2,000 - 1,000 m
1,000 - 2,000 m
2,000 - 3,000 m
3,000 - 4,000 m
4,000 - 5,000 m
5,000 - 6,000 m
6,000 - 7,000 m
7,000 - 8,000 m
8,000 - 9,000 m
9,000 - 10,000 m
10,000 m以深

— 排他的経済水域の境界線

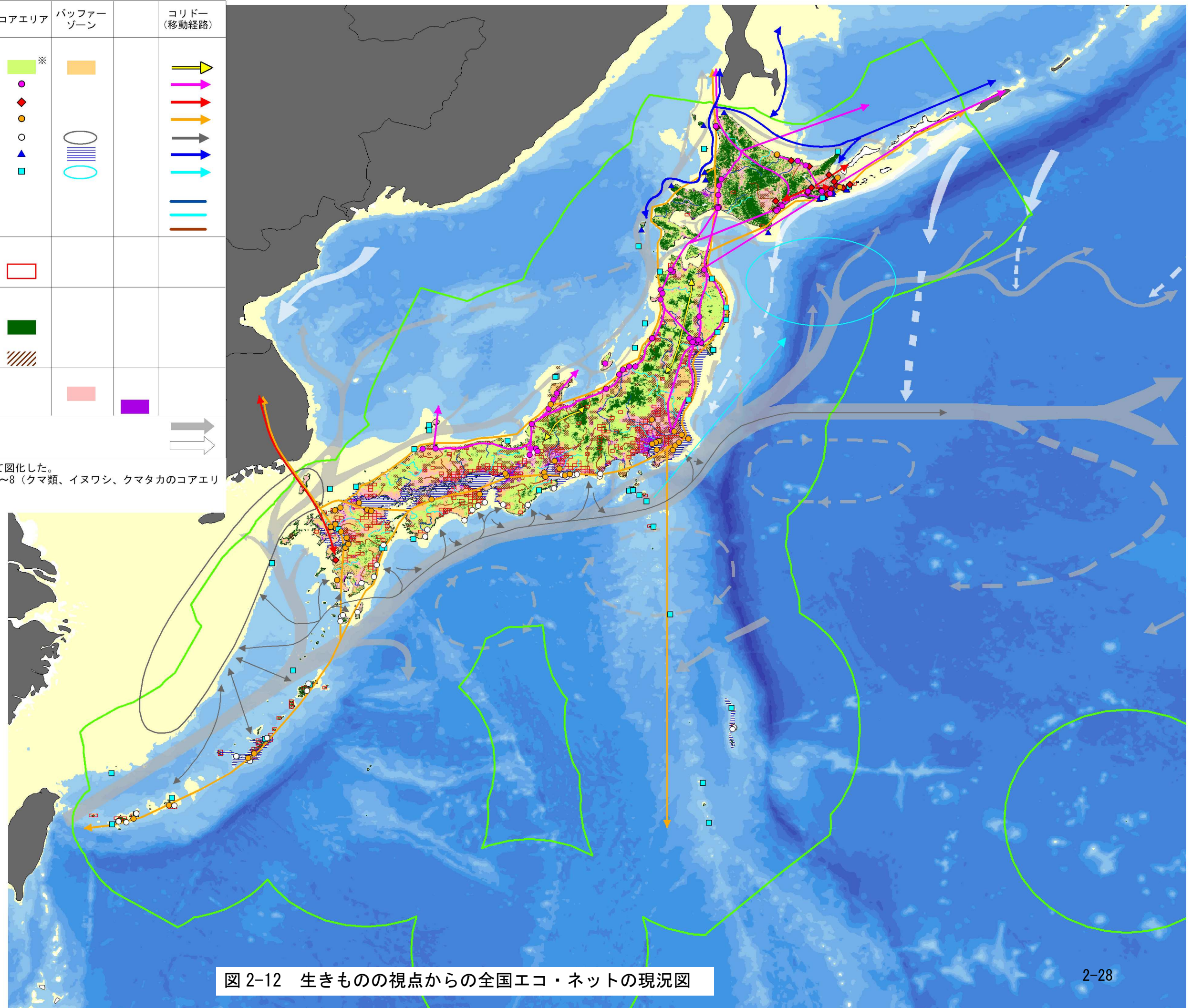
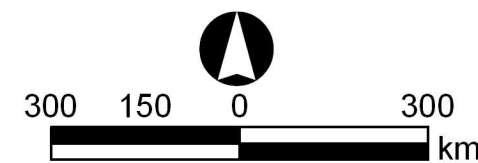


図 2-12 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図

	コアエリア	バッファゾーン	コリドー (移動経路)
指標種			
クマ類、イヌワシ、クマタカ	※	■	→
ガン類	●		→
ツル類	◆		→
シギ・チドリ類	○		→
ウミガメ類	○	○	→
海棲哺乳類	▲	○	→
海鳥	■	○	→
アユ等			→
上流まで魚類の遡上が可能			→
中流まで魚類の遡上が可能			→
中流まで魚類の遡上ができない			→
希少な種（絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類の種）			
希少な種が10種以上確認されているメッシュ	□		
希少な生態系			
自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸	■		
オオタカやサシバのいる里地里山	▨		
土地利用状況※※			
農耕地、二次林、人工林等	■	■	
市街地等		■	
暖流系の海流（黒潮など）			→
寒流系の海流（親潮など）			→

※図化にあたっては、希少な生態系を優先して図化した。
 ※※農耕地、二次林、人工林等：植生自然度2~8（クマ類、イヌワシ、クマタカのコアエリア、バッファゾーン以外）
 市街地等：植生自然度1

海底地形（水深）

0 - 200 m
2,000 - 1,000 m
1,000 - 2,000 m
2,000 - 3,000 m
3,000 - 4,000 m
4,000 - 5,000 m
5,000 - 6,000 m
6,000 - 7,000 m
7,000 - 8,000 m
8,000 - 9,000 m
9,000 - 10,000 m
10,000 m以深

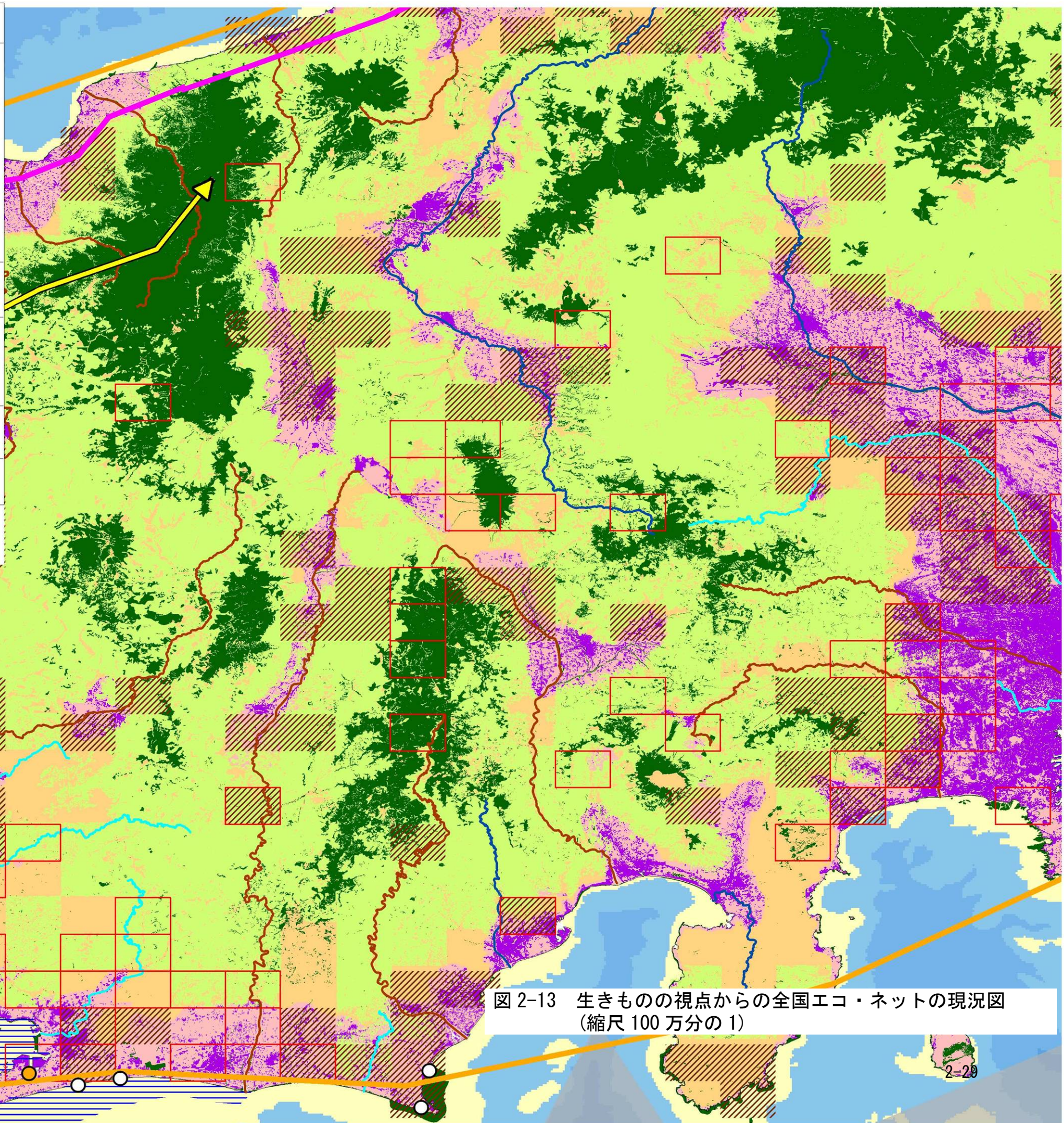
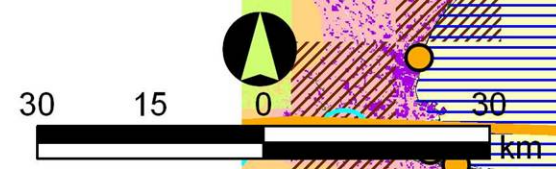


図 2-13 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図
(縮尺 100 万分の 1)



	コアエリア	バッファゾーン	コリドー (移動経路)
指標種			
クマ類、イヌワシ、クマタカ	※		→
ガン類	●		→
ツル類	◆		→
シギ・チドリ類	○		→
ウミガメ類	○	○	→
海棲哺乳類	▲	○	→
海鳥	■	○	→
アユ等			→
上流まで魚類の遡上が可能			→
中流まで魚類の遡上が可能			→
中流まで魚類の遡上ができない			→
希少な種 (絶滅危惧 I 類・II 類の種)			
希少な種が10種以上確認されているメッシュ	□		
希少な生態系			
自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸	■		
オオタカやサシバのいる里地里山	▨		
土地利用状況 ※※			
農耕地、二次林、人工林等	■	■	
市街地等		■	
暖流系の海流 (黒潮など)			→
寒流系の海流 (親潮など)			→

※図化にあたっては、希少な生態系を優先して図化した。
 ※※農耕地、二次林、人工林等：植生自然度2~8 (クマ類、イヌワシ、クマタカのコアエリア、バッファゾーン以外)
 市街地等：植生自然度1

海底地形 (水深)

0 - 200 m
2,000 - 1,000 m
1,000 - 2,000 m
2,000 - 3,000 m
3,000 - 4,000 m
4,000 - 5,000 m
5,000 - 6,000 m
6,000 - 7,000 m
7,000 - 8,000 m
8,000 - 9,000 m
9,000 - 10,000 m
10,000 m 以深

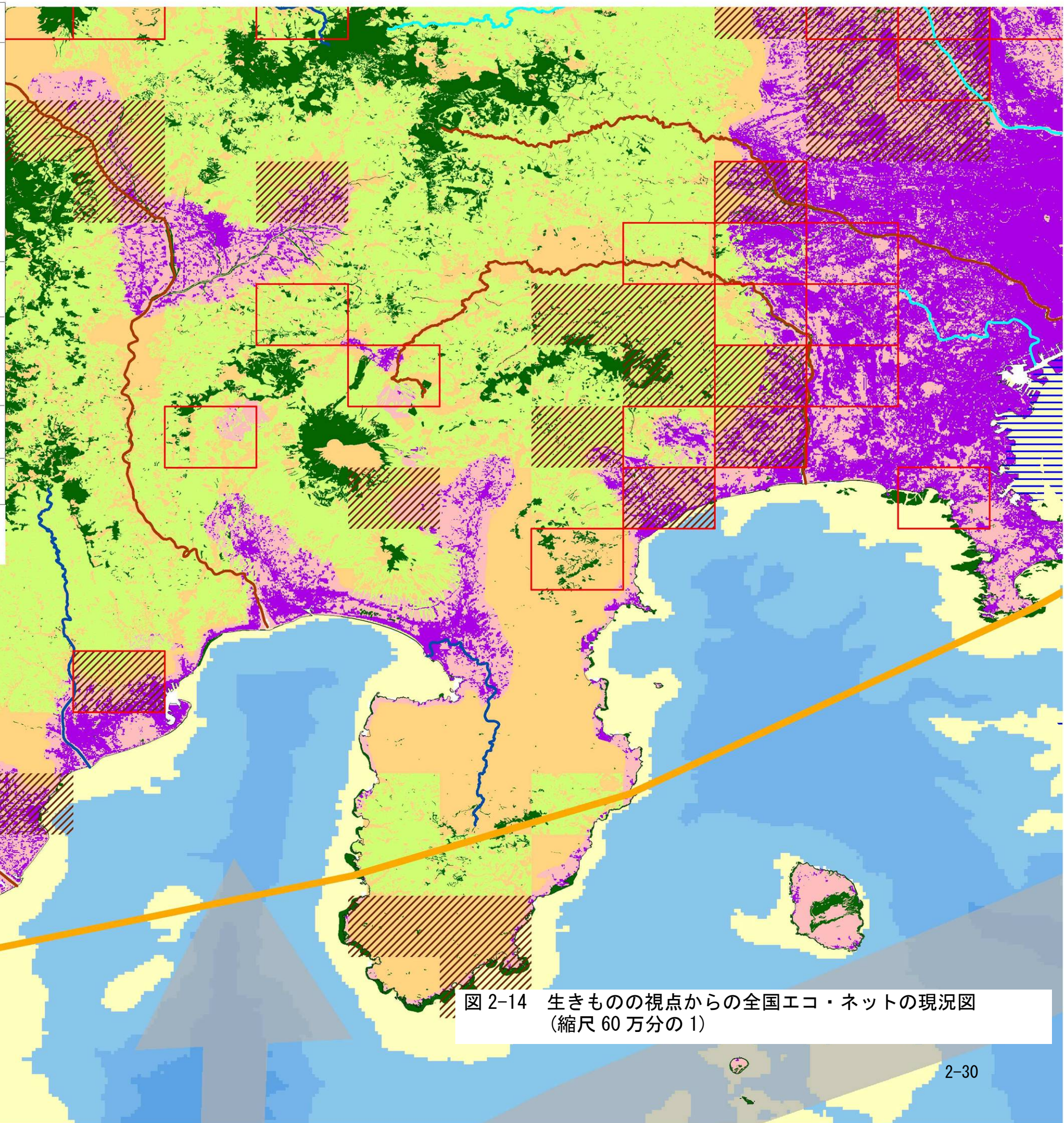


図 2-14 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図 (縮尺 60 万分の 1)

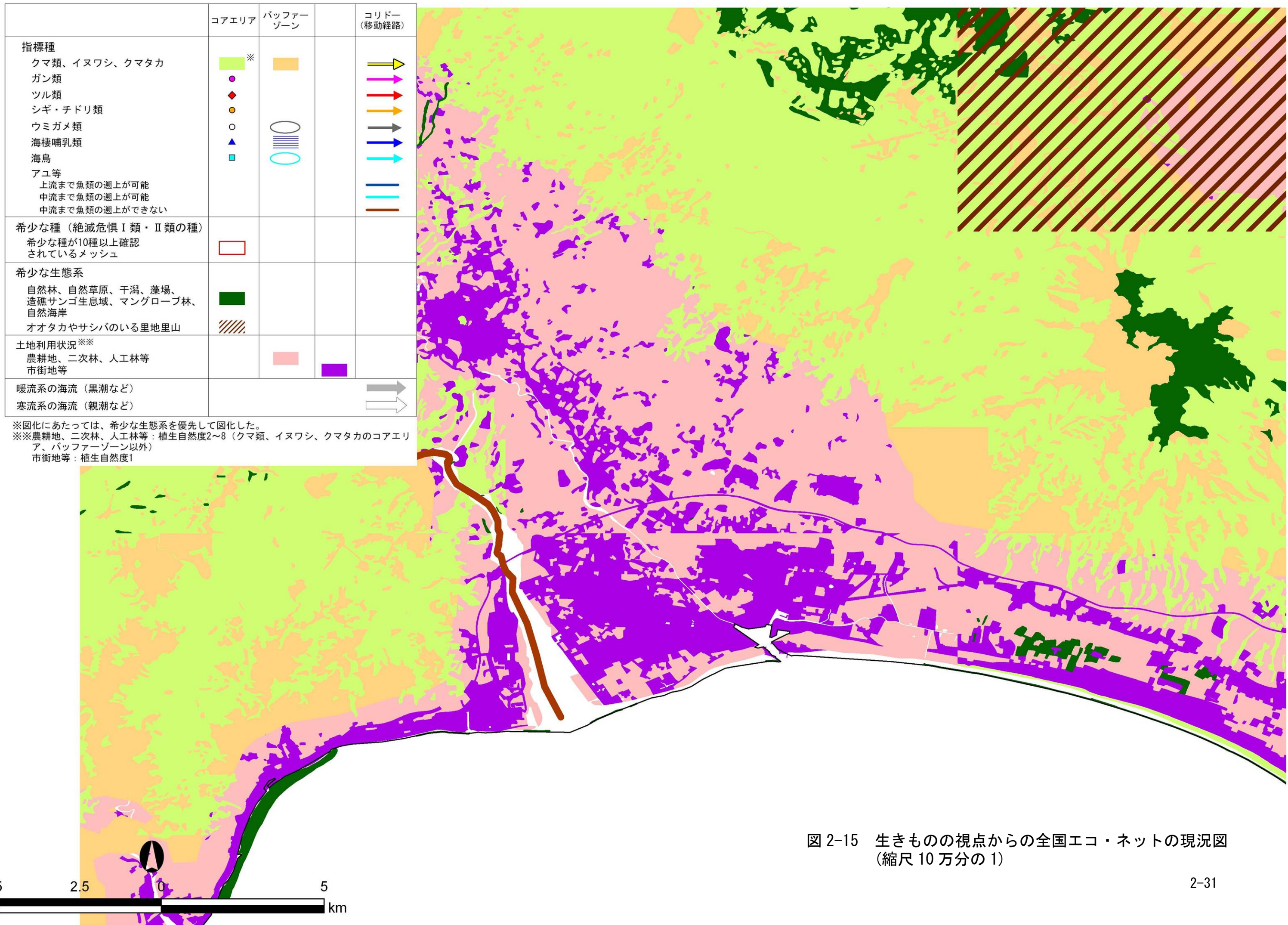


図 2-15 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図
(縮尺 10 万分の 1)

	コアエリア	バッファゾーン		コリドー (移動経路)
指標種				
クマ類、イヌワシ、クマタカ	※			→
ガン類	●			→
ツル類	◆			→
シギ・チドリ類	○			→
ウミガメ類	○	○		→
海棲哺乳類	▲	○		→
海鳥	■	○		→
アユ等				→
上流まで魚類の遡上が可能				→
中流まで魚類の遡上が可能				→
中流まで魚類の遡上ができない				→
希少な種（絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類の種）				
希少な種が10種以上確認されているメッシュ	□			
希少な生態系				
自然林、自然草原、干潟、藻場、造礁サンゴ生息域、マングローブ林、自然海岸	■			
オオタカやサシバのいる里地里山	▨			
土地利用状況※※				
農耕地、二次林、人工林等		■	■	
市街地等			■	
暖流系の海流（黒潮など）				→
寒流系の海流（親潮など）				→

※図化にあたっては、希少な生態系を優先して図化した。
 ※※農耕地、二次林、人工林等：植生自然度2~8（クマ類、イヌワシ、クマタカのコアエリア、バッファゾーン以外）
 市街地等：植生自然度1

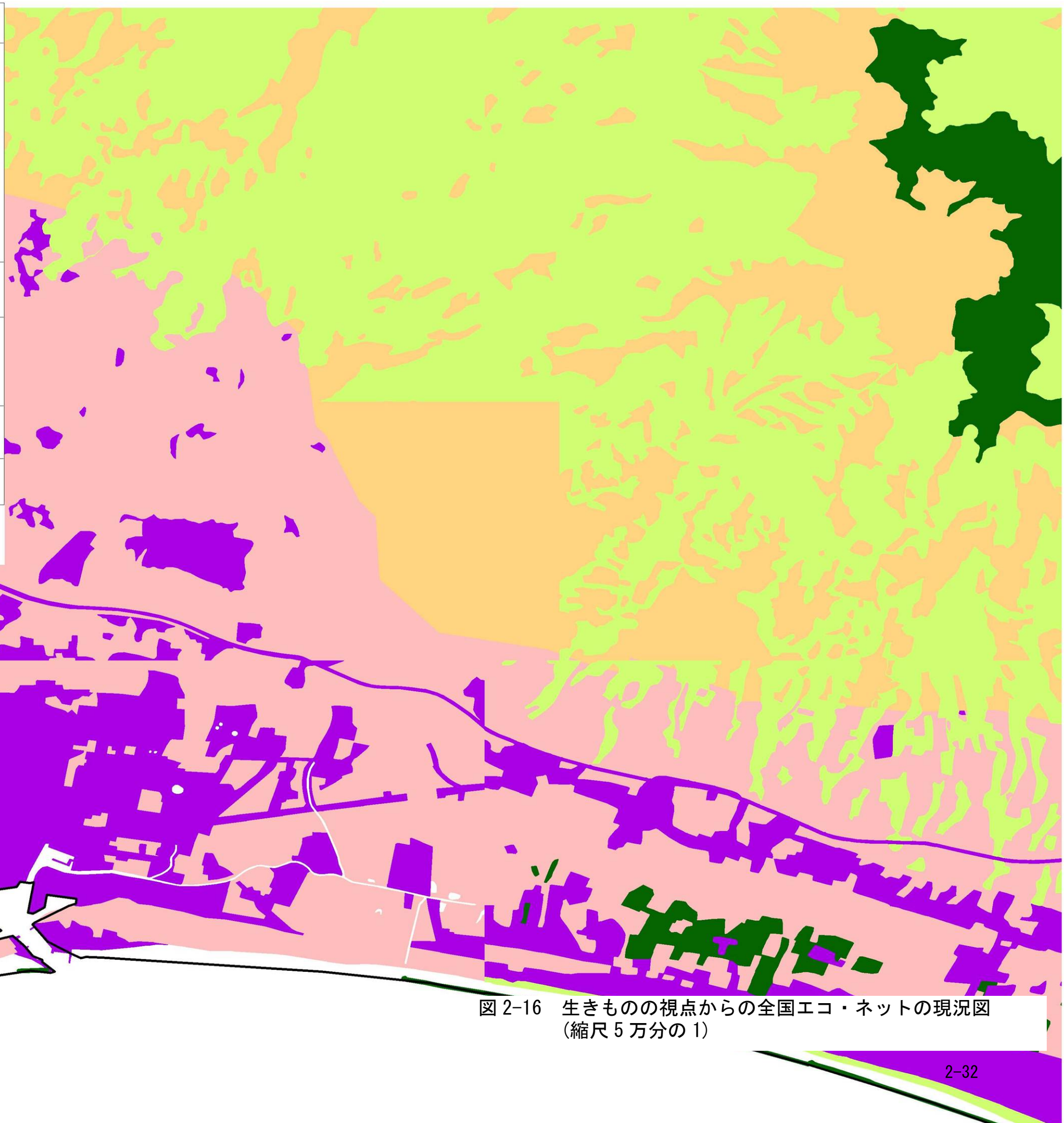


図 2-16 生きものの視点からの全国エコ・ネットの現況図
(縮尺 5 万分の 1)